

2023年3月23日（木曜）

全労金2023春季生活闘争ニュース・第35号

～勝ち取ろう賃金改善！“みんなの春季生活闘争”で生活不安を払拭しよう！～

《合意速報No. 13》

東海労組が関連会社との団体交渉で、「基本合意」を表明しました！

東海労組は、3月23日16時から、関連会社と「団体交渉」を開催し、基本合意を表明しました。要求と回答は以下の通りです。

		要 求				回 答			
		正社員	契約社員	特務社員	再雇用 嘱託社員	正社員	契約社員	特務社員	再雇用 嘱託社員
最低賃金		－				－			
基本賃金	改善内容	11,300円	11,300円 時給80円	11,300円 時給80円	11,300円 時給80円	3,000円	3,000円 時給20円	3,000円 時給20円	新賃金表の 適用
一時金		3.1	1.0	1.0	1.0	3.1	1.0	1.0	2.0
昨年実績		2.95	0.45	0.45	0.45	2.95	0.45	0.45	0.45
安定雇用	無期転換	－	無期転換権の付与		－	－	応じられない		－
雇用環境	私傷病休職	－				－			
	育児時短	(小学校3年生まで)				(小学校3年生まで)			
単組独自要求		福利厚生倶楽部への加入				応じられない			

《関連会社の発言概要》

社員の生活を守るのは経営者の責任である。とりわけ、インフレ下においては、どの経営者もそのことをこれまで以上に痛感しているのではないかと思う。

2月27日に要求書をいただき、私自身も自問自答を繰り返す毎日であったし、常勤取締役で何度も議論し、最大限の回答を出したい気持ちを持ちながら、経営の持続可能性も勘案した結果、これが精一杯のところとなった。

当社は金庫のような過去からのストックが収益を生み出す金融機関ではないので、日々の安定的な売り上げがないと、直ちに赤字に陥ることになり、大幅な人件費増の固定化はなかなかハードルが高いことに加え、金庫が嘱託職員の処遇を見直し、当社としても金庫と平仄をとるための処遇改善を行うことから、人件費の増大を予定して

いた。さらに、次年度以降の業務量と人員のミスマッチが懸念されること等から抑制的な回答とならざるを得なかった。

1点のみ要求項目に関する個別のコメントを申し述べたい。年間一時金の上限撤廃について、上限を設けていること自体を問題視していたが、3月7日の取締役会において、賃金規程別表からの削除を決定した。労組からの要求が良いきっかけとなったため感謝申し上げたい。

今後とも、東海労金グループの最適化のため、親会社である金庫と良い意味での「切磋琢磨」を繰り返し、その果実として当社の社員の処遇改善に努めてまいりたい。

《森本闘争委員長の発言概要》

回答結果は、組合員の割合が多くない中で、労働組合の要求主旨・想いを十分に受け止め、真摯に要求に向き合っていたいただいた結果であると受け止めている。

回答に対する社員へ生活改善・向上への想い、労働組合からの要求項目に対する経営の考え方、サービスを取り巻く経営環境、今後の収益計画等、交渉を通じて、社員に対する経営の思いも伝えていただいたと受け止めている。

単組は、①基本賃金の改善について、満額ではないものの、厳しい財政状況の中で最大限の金額が示されたこと、②年間一時金について、支給上限を撤廃できたこと。そのうえで満額回答が示されたこと、等から基本合意を表明しました。

*合意単組（9単組／3月23日19時30分現在）

静岡・四国・四国（関連）・北陸・近畿（金庫）・近畿（関連）・北海道・長野
沖縄・東北（金庫）・東北（関連）・東海（金庫）・東海（関連）

以 上